

◆ 目黒区 ◆

中小企業の景況

平成27年度第3・四半期
(平成27年10~12月)



目黒区 産業経済部 産業経済・消費生活課

目 次

1. 都内中小企業の景況	1
2. 目黒区内中小企業の景況（平成 27 年 10～12 月期）	2
(1) 今期の特徴点	2
(2) 今期の景況と来期の見通し	5
製造業	5
卸売業	9
小売業	12
サービス業	15
建設業	18
(3) 調査員のコメント	21
3. 日銀短観／東京都と目黒区の企業倒産動向（平成 27 年 12 月）	24
4. 特別調査「2016 年（平成 28 年）の経営見通し」	27
5. 中小企業景況調査 比較表・転記表	29

調査の概要

1. 調査時期 平成 27 年 10 月～12 月期（四半期毎実施）
2. 調査方法 面接聴取調査
3. 調査の対象と回収状況

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製 造 業	98	93
卸 売 業	29	28
小 売 業	50	49
サ ー ビ ス 業	60	57
建 設 業	42	38
合 計	279	265

調査実施機関 一般社団法人東京都信用金庫協会

分析実施機関 株式会社帝国データバンク

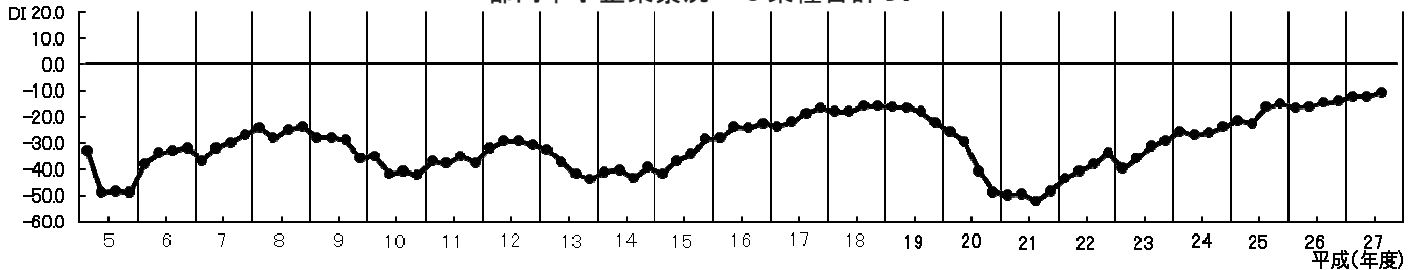
1. 都内中小企業の景況（平成27年10～12月期）

（一般社団法人 東京都信用金庫協会調べ）

不動産業、8年ぶりにプラスに転じる

～建設業、堅調に推移～

都内中小企業景況・6業種合計DI



業況判断DI（季節調整済、「良い」企業割合－「悪い」企業割合）は－10.7（前期は－12.2）と前期に比べ、1.5ポイント改善した。業種別で見ると、建設業で好調感が強まり、不動産業でわずかに好転し、小売業・サービス業で水面下ながら若干持ち直した。来期は、建設業で好調感が強まり、製造業・卸売業・サービス業で水面下ながら改善すると予想している。

	前 期	今 期	増 減	来 期 予 想	今期との増減
製 造 業	-11.1	-10.0	1.1	-6.5	3.5
卸 売 業	-11.2	-9.8	1.4	-7.6	2.2
小 売 業	-26.7	-25.3	1.4	-23.9	1.4
サ ー ビ ス 業	-13.5	-12.2	1.3	-8.7	3.5
建 設 業	6.6	8.9	2.3	13.5	4.6
不 動 産 業	-0.7	1.3	2.0	0.0	-1.3
総 合	-12.2	-10.7	1.5	-7.8	2.9

<製造業>

業況は前期同様の厳しさが続いた。売上額・受注残・収益は前期並の減少が続いた。価格面では、販売価格は変動なく推移し、原材料価格は多少落ち着きを見せた。

業種別に見ると、「輸送用機械」「化学工業」は前期並の良好感が続いた。「精密機械」は大きくプラスに転じ、「電気機械」ははかなり明るさが見えた。「プラスチック」「食料品」は幾分持ち直した。「繊維・衣服」「皮革関連」ははかなり厳しさが和らいだ。「一般機械」「印刷関連」は前期同様の厳しさが続き、「プレス・メッキ」「金属製品」「木材・家具」「ゴム製品」「紙・紙加工品」はやや低調感を強めた。「建設用金属」は大幅に業況感が落込んだ。

来期の業況は水面下ながら改善するとみている。売上額・受注残・収益は回復の兆しが見えると予想している。

<卸売業>

業況は前期同様の厳しさが続いた。売上額・収益は、ともに前期並の低迷が続いた。価格面では、販売価格は前期並の高い水準が続き、仕入価格はやや落ち着きを見せた。

業種別では、「機械器具」ははかなり良好感が強まり、「化学製品」は大きくプラスに転じた。水面下ながら、「建築材料」「鉱物・金属材料」は大幅に厳しさが和らぎ、「繊維・衣服」は多少持ち直した。一方、「食料品・飲食品」は幾分厳しさを増した。

来期の業況は、水面下ながら上向くとみている。売上額・収益は減少が一服すると予想している。

<小売業>

業況はわずかに厳しさが和らいだ。売上額・収益は若干改善した。価格面では、販売価格はわずかに上昇に転じ、仕入価格は前期並の上昇が続いた。

業種別では、「家電・家庭用機械」「カメラ、時計・眼鏡」は水面下ながら大きく改善し、「ガソリンスタンド・燃料」「飲食品」は多少厳しさが和らいだ。一方、「飲食店」は若干低迷し、「スポーツ用品・玩具」「医薬品・化粧品」「家具・建具・じゅう器」ははかなり深刻さを増した。

来期の業況は、今期同様の厳しさが続くことと予想している。売上額・収益は引き続き改善するとみている。

<サービス業>

業況は水面下ながらやや上向いた。売上額・収益は前期並の減少が続いた。価格面では、料金価格は変動なく推移し、材料価格はやや落ち着きを見せた。

業種別に見ると、「自動車整備・駐車場」「洗濯・理容・美容」は水面下ながら多少改善し、「情報サービス・調査・広告」は大きく悪化に転じた。

来期の業況は厳しさが和らぐとみている。売上額・収益はともに改善するとみている。

<建設業>

業況はやや好調感が強まった。売上額は前期同様の増加が続き、受注残・施工高は若干強含み、収益は前期同様の水準で推移した。価格面では、請負価格はわずかに上昇幅が拡大し、材料価格は前期並の上昇が続いた。

業種別に見ると、「総合工事」「設備工事」は幾分上向き、「職別工事」は前期並の良好感が続いた。

来期の業況はさらに好調感が強まると予想している。売上額・収益は堅調に推移し、受注残・施工高は今期同様の増加が続くとみている。

<不動産業>

業況はわずかにプラスに転じた。売上額は大きく水面下を脱し、収益は幾分良化した。価格面では、販売価格はかなり上昇し、仕入価格は前期並の高い水準が続いた。

業種別に見ると、「建売・土地売買」は前期並の良好感が続き、「不動産代理・仲介」は前期同様変化なく推移した。

来期の業況は、今期同様変化がないものとみている。売上額は今期同様の増加が続き、収益は増加基調が一服すると予想している。

[注]

○D.I (Diffusion Index ディフュージョン インデックス の略)

D.I (ディーアイ) は増加 (又は「上昇」「楽」など) したと答えた企業割合から、減少 (又は「下降」「苦しい」など) したと答えた企業割合を差し引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○ (季調済) D.I・・・本調査における D.I は季調済 D.I を使用しています。

季調済とは、各期ごとに季節的な変動を繰り返す D.I を過去 5 年間まで遡って季節的な変動を除去して加工した D.I 値です。修正値ともいいます。

○傾向値

傾向値は、季節変動の大きな業種 (例えば小売業) ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方向をみる方法です。